

子日研 第9回大会 パネルディスカッション
外国人の子どもたちの地域支援の現状と課題
3月10日 13:00~14:50

3. 佐賀県全体の日本語支援ネットワーク作り

2024.3.10

宮崎国際大学准教授
佐賀県日本語学習支援“カスタネット”
佐賀県教委 連絡協議会委員
宮崎子ども日本語教育研究会

早瀬 郁子

Email : ihayase@miu.ac.jp

目次

散在地域 佐賀県全体の日本語支援ネットワーク作り

1. 佐賀県の現状
2. 佐賀県における日本語指導体制作りの歩み
ステップ1 (1999年~) 2010年まで
ステップ2 2010年~2015年
ステップ3 2016年~現在
3. 現在の支援体制
4. 今後の課題

1. 佐賀県の現状

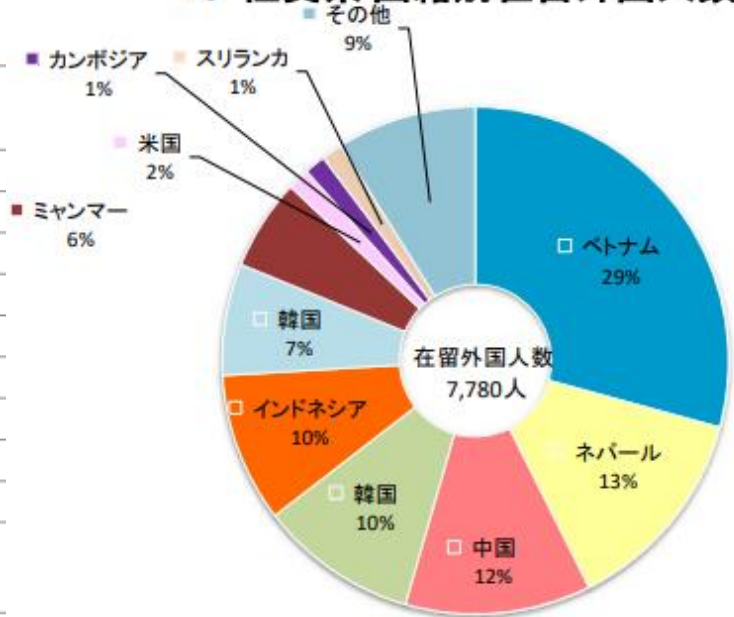
1-1. 佐賀県の現状 ～在留外国人数の状況～

R5.1.1

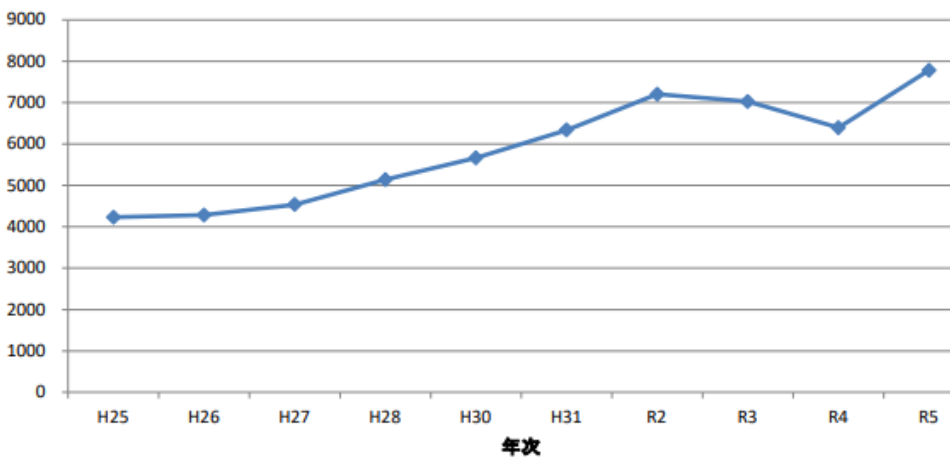
県国際課資料

年次	H25	H26	H27	H28	H30.1.1	H31.1.1	R2.1.1	R3.1.1	R4.1.1	R5.1.1
人数(人)	4,229	4,285	4,536	5,140	5,666	6,338	7,204	7,027	6,394	<u>7,780</u>

R5 佐賀県 国籍別在留外国人数の割合



佐賀県在留外国人数の推移



1. 新型コロナ水際対策緩和により、R5.1.1は急増し、過去最大の外国人数となった
2. 外国人は県人口の0.97%を占める(昨年は0.8%)
3. 国籍別では、ベトナム→ネパール→中国→韓国・インドネシアとなっている
4. ネパール、インドネシア、ミャンマーの上昇がみられる

1-2 .佐賀県の現状 ～日本語指導が必要な児童生徒数と日本語指導担当教員数～

県教委資料



R5.5.1現在
小学生：91人（外国籍52人、日本国籍39人）
中学生：24人（外国籍20人、日本国籍4人）

5名の日本語指導担当教員 + 26名の帰国子女等対応非常勤講師が学校で日本語指導（JSLカリキュラム）（初期指導）

2. 佐賀県における日本語指導体制作りの歩み

2-1 ステップ1 1998年頃～2010 (H22) 年まで

- ・市町単位で帰国子女・外国籍子女に対する施策を実施

<帰国外国人子女等非常勤講師の任用> 佐賀市…1998 (H10) 年からスタート

✎ 中学生には配置がなかった

✎ 非常勤講師選定条件

- ・ 教員免許を有する者
- ・ 指導する外国人児童の母語が話せる者

※ 非常勤講師に日本語教育の知識は求められない

→ 適切な日本語初期指導がなされない。

※ 2つの条件を満たす人材がない場合 → 指導がない!

(子どもの母語がわかる人や日本語がわかるその子の親がサポートしているケースもあり)

半年経っても
ひらがなさえ書けない
…子ども & 保護者の

教室の中でどう対応し
ていいかわからない
…先生の

授業が分からず
泣いている
…子ども & 先生の

2-1 ステップ1 課題

課題！

1. 佐賀県全体での統一した日本語指導体制の構築！
2. 日本語教育の知識のある人の日本語指導を！
3. 行政や学校、地域に日本語教育の必要性の周知を！
4. 外国につながる子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう！ 日本語初期指導、適切な指導時間の確保
5. 外国につながる子どもたち（+家族）の交流の場を！

2-2 ステップ2 2010～2015 (H22～27) 年

佐賀県日本語学習支援 “カスタネット” forキッズ の活動

文化庁 平成23～29年度「生活者としての外国人」のための日本語事業 委託団体

佐賀県日本語学習支援 “カスタネット” *CASTANETS*

～Citizens from *A*broad to *S*aga, *T*eaching *A*ssistant *N*ETworks～

CASTANETS
for *B*eginners

- ・外国籍住民の方への初級日本語集中講座のコーディネート及び実施

CASTANETS
for *K*ids



CASTANETS
for *S*upporters

- ・日本語ボランティア養成講座の実施
- ・地域日本語教育の周知活動

- ・県教委・学校との連携：外国につながる子どもたちの日本語サポート体制作り
 - ・子ども日本語サポーター養成講座 ・子ども日本語教室（←初期の段階に）
 - ・「ガイドブック佐賀～学校編」、「佐賀 初期指導マニュアル」等の作成
 - ・「佐賀日本語指導者研修会」（年4～5回）実施
 - ・さが♡わーるどりんぐ（年3回 佐賀県下の児童生徒交流会）協力
- ➡現在の位置づけ…日本語指導に係る研修を行う団体



2-2 ステップ2 佐賀県日本語学習支援 “カスタネット” forキッズの活動

外国につながる子どもが一定の質が担保された日本語指導を受けられるように…

学校における日本語教育実践を捉える3つの視点

教育実践の環境作りの視点

・地域教育ネットワークの形成

① 「子ども日本語サポーター養成講座」 (2010-2011年開催)

⇒カスタネットforキッズのメンバーとして活動

- ・ 学校現場での指導
- ・ ボランティアとして日本語教室で支援

②佐賀県初の「こども日本語教室」(カスタネット) 開設 2011-2014年 毎週土曜

・教育体制の改善

①県教委：日本語教育の知識を持った非常勤講師の配置…初期指導の充実
中学生への指導開始…長期支援と支援体制の拡大

帰国子女等非常勤講師採用基準の変更

県教委

- ・ 日本語教育の知識がある者
- ・ 教員免許状を有する者
(ただし、日本語教育の知識があれば、教員免許状がなくても、TT指導が可能)
- ・ 指導する外国人児童生徒の母語は話せなくてもOK

👉適切な日本語指導、
速やかな日本語指導が可能に！

②県国際交流協会 (SPIRA) : 「こども日本語サポーター」派遣
2013-2015カスタネット委託⇒その後SPIRAが運営

SPIRA

学校における日本語教育実践を捉える3つの視点

教育主体の成長の視点

・日本語指導の専門性を有する人材の育成

カスタネット

子どもの日本語力向上には、日本語教育の専門性を有する人材の育成が重要

1. 「**子ども日本語サポーター養成講座**」 2010-2011年佐賀市国際交流協会主催
2. 「**子ども日本語指導者研修会**」 カスタネット主催（文化庁委託事業）
2011年より 年5~6回実施…実践発表、外部講師による講演会
（DLA研修など）実施 ⇒現在も継続
3. 「**勉強会**」 カスタネット主催 2011年より実施（カスタネットメンバー対象）
年1回他地域への視察、指導法研究、情報交換等
～文科省の指導案に則った日本語指導の実践、指導者のスキルアップ～

・交流イベント

カスタネット

わーるどりんぐ

カスタネット主催 2011年開始 → 2013年から**わーるどりんぐ**へ
年3回の交流イベント（小学生～高校生）
継続的に子どもを支援する場に、他団体、大学のサークルとの協働

実践内容・方法に関わる視点

1. ALPが身につくまでの長期支援

カスタネット

- ・日本語コーディネーターによる長期的日本語指導計画。
- ・編入当日からの日本語指導と通訳者の適応指導。
- ・長期間の日本語指導継続により、高校受験を意識した教科学習支援が可能に。

2. 融合指導（取り出し指導&TT指導）

カスタネット

- ・効果的なスキャホールディングが可能に。
- ・TT指導で躓いている箇所を把握し取り出し指導で適切な指導を。
- ・教室内の関りを見て、取り出し指導時に精神面のフォロー。
- ・担任との連携。指導者の孤立化の防止。

3. 地域と連携した支援体制

カスタネット

日本語教室

- ・学校と日本語教室の連携…日本語コーディネーターが両者を繋ぐ。
- ・日本語コーディネーターが学習指導計画を立て、指導のフォローをする。

4. 支援チーム編成…ケース会議

学校

カスタネット

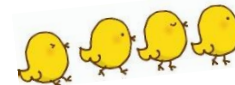
有識者

ボランティア

- ・学校全体の問題として捉え、外部の有識者やボランティア等と支援チーム編成。
- ・学校の枠を超えた支援体制で、様々なサポートを得て高校進学へ。

成果&変化

1. 佐賀県全体での統一した日本語指導体制の構築！



👉 学校と県教委・市教委、県協会、カスタネットとの連携が進む

2. 日本語教育の知識のある人の日本語指導を！



👉 佐賀県教委の日本語非常勤採用基準の変更！

「子ども日本語サポーター養成講座」カスタネット&県国際交流協会

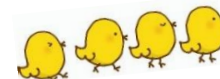
3. 行政や学校、地域に日本語教育の必要性の周知を！



👉 県教委に要望書を提出

4. 外国につながる子どもたちが安心して学校生活を送ることができるように！ 日本語初期指導、適切な指導時間の確保

👉 学校で初期指導や継続指導が可能に



👉 「子ども日本語指導者研修会」…指導者の指導力向上のため

5. 外国につながる子どもたち（+家族）の交流の場を！

👉 「さが♡わーるどりんぐ」交流会

佐賀国際交流協会・佐賀市国際交流協会のイベント



2-2 ステップ2 課題

課題！

1. 佐賀県全体での統一した指導体制の構築！
地域及び学校間の格差をなくす

2. 散在地域特有の「特別な教育課程」を！

👉 佐賀県版初期指導カリキュラム作り

3. 行政や学校、地域に日本語教育の必要性の周知を！

👉 教員研修会や地域協議会での周知

子どもの特徴・学校や担任の理解・学校内での支援体制作り等

4. 外国につながる子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう！

日本語初期指導、適切な指導時間の確保、長期指導の保障
子どもへの精神的なサポート

5. 日本語指導者の指導力向上

👉 「子ども日本語指導者研修会」…指導者の指導力向上、連携・協働に
繋げられるように

2-3 ステップ3 2016(H28)年～現在

指導体制の確保・充実

1. 日本語指導担当教員の配置

- ・ 2016年 佐賀市小学校に2名の加配教員
- ・ 2017年 伊万里市小学校に1名の加配教員
- ・ 2018年 佐賀市中学校に1名の加配教員
- ・ 2023年 鳥栖市小学校に1名の加配教員

県教委
市教委

現在計 5名



2. 県が 文科省「帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業」に申請

県教委

佐賀県教委主催連絡協議会 帰国・外国人児童生徒等日本語指導担当教員配置に係る連絡協議会
(研究指定校校長・教諭、関係教育委員会、県協会、外部有識者等)の実施

- ・ 「**特別の教育課程**」による指導がスムーズに
- ・ DLAによる日本語力測定…**DLA支援員**の配置 (アドバイザー的役割)
- ・ 学校内での支援体制作りが容易に。認知の広がり
- ・ プレスクールの実施 (佐賀市協会主催、カスタネット等との連携)

県教委

カスタネット

カスタネット

市国交協

市教委

指導力の向上、支援環境の改善

1. 日本語指導担当教員研修

- ・指導力向上のための研修会、公開授業
- ・指導計画、在籍学級と連携の取れた指導、巡回指導
- ・校内研修、学校における指導体制の構築

県教委
市教委

2. 非常勤講師研修会

- ・佐賀県教委主催の研修会（年2回実施 2020年より）
- ・カスタネットforキッズによる指導者研修会（年3～5回実施）

県教委

3. DLAの実施、来年度の計画 DLA支援員

カスタネット

外国人児童生徒等への支援

1. 高校進学ガイダンス・キャリア支援
2. 就学前児童の状況把握（未就学児用日本語カテスト）、プレスクール
3. 異文化理解/多文化共生教育、母語・母文化支援（各学校内で）
4. 外国につながる子ども・保護者の交流会（さが♡わーるどりんぐ主催）

わーるどりんぐ

カスタネット

佐賀県の子ども支援(3機関連携 連続講座開催)

2017-2018
(H29-30)

- 子どものための多文化共生支援
「子ども日本語サポーター」派遣
(非常勤講師配置前後に)、
「母語通訳ボランティア」派遣
- ボランティア「にほんご教室」
活動支援

「子ども支援ボランティア養成
講座」(市民対象 第1弾)

佐賀県教育委員会

- 2016年より日本語指導担当教員の配置。「特別の教育課程」を編成し指導の充実を図る
- 2017年より「連絡協議会」を設置し、関係機関の連携を図る
- 成果の普及、公開授業

学校教員向け研修会(第2弾)

成果

- 支援体制の充実
- 県全体に、日本語支援の必要性の認知、周知が拡大
- 連携が容易に

佐賀県国際交流協会

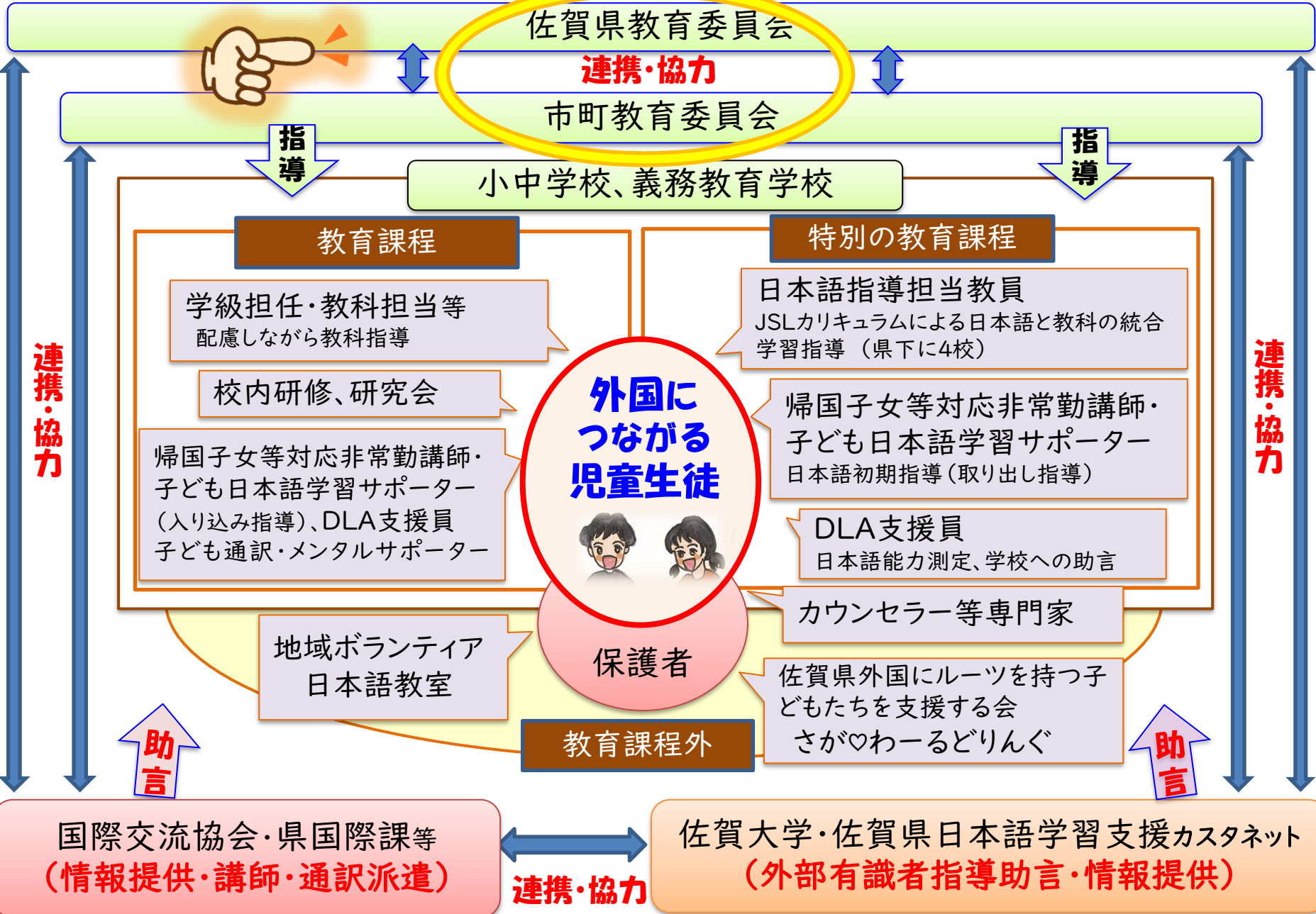
カスタネット

- 日本語指導者のスキルアップと連携のための「指導者研修会」(年5回、第3弾)実施
- 「ガイドブック佐賀～学校編」の作成

佐賀県の日本語支援 2018年～

- ◆ **日本語指導担当教員**の配置（佐賀市、伊万里市）
- ◆ 佐賀県教委：「**帰国子女等非常勤講師**」の配置、**学校教員向け研修会**
- ◆ **佐賀県国際交流協会**
 - ・「**こども日本語学習サポーター**」派遣
(来日直後・県の指導終了後の補完事業、原則 2,3 の同時派遣はない)
 - ・「**こども通訳・メンタルサポーター**」派遣
(母語通訳者による 子ども・保護者へのサポート、1回ごとに申請)
 - ・一般市民向け研修会…「**子どもサポーター養成講座**」
- ◆ **佐賀市国際交流協会**
 - ・「**聞かせてよ、お母さん**」外国につながる子どもの保護者向けセミナー
 - ・「**就学前ガイダンス**」小学校入学説明会&就学前の子どもの日本語力チェック
- ◆ **カスタネット**：**子ども日本語指導者研修会**、「**ガイドブック佐賀**」作成
- ◆ **学校外国にルーツをもつ生徒交流を支援する会**：**交流会 “わーるどりんぐ”**
- ◆ **地域の日本語教室**：**ボランティア学習支援**
(佐賀市、小城市、多久市、鳥栖市などに子ども対応の教室あり)

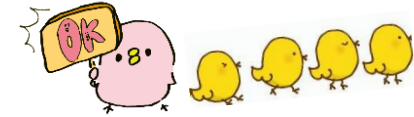
佐賀県の外国につながる児童生徒支援体制 2019~



2-3 ステップ3 ステップ2からの変化

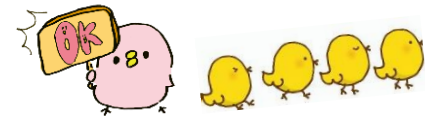
成果&変化

1. 佐賀県全体での統一した指導体制の構築！
地域及び学校間の格差をなくす



2. 散在地域特有の「特別な教育課程」を！

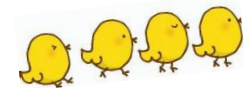
👉 佐賀県版初期指導カリキュラム作り



3. 行政や学校、地域に日本語教育の必要性の周知を！

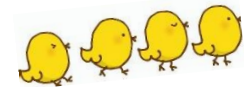
👉 教員研修会や地域協議会での周知

学校や担任等の理解・学校内での支援体制作り



4. 外国につながる子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう！

日本語初期指導、適切な指導時間の確保、長期指導の保障
子どもへの精神的なサポート



5. 日本語指導者の指導力向上

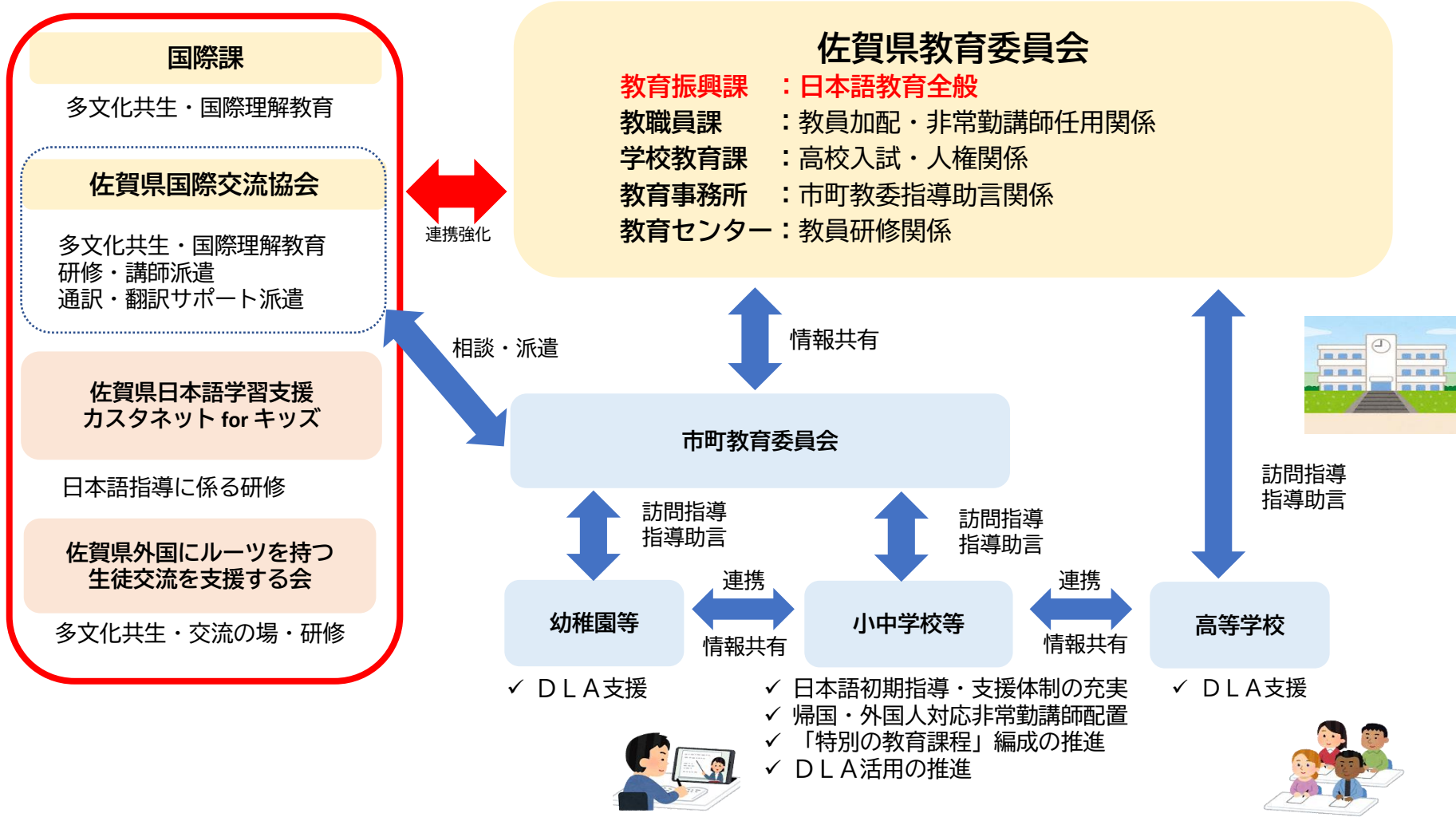
👉 「子ども日本語指導者研修会」…指導者の指導力向上、
連携・協働に繋がられるように



3. 現在の支援体制

3-1. 佐賀県の日本語指導に係る事業実施体制

県教委資料



連絡協議会

〈構成員〉

- 県教育委員会担当者
(教育振興課・教職員課・学校教育課・教育事務所・県教育センター)
- 佐賀市・鳥栖市・伊万里市・武雄市教育委員会担当者
- 県国際課担当者
- 県国際交流協会担当者
- 日本語指導担当教員
- 日本語指導担当教員配置校校長
- 佐賀日本語学習支援カスタネット for キッズ
- 佐賀県外国にルーツを持つ生徒交流を支援する会

3-2. 帰国・外国人児童生徒の受け入れについて

県教委資料



学校・市町教育委員会

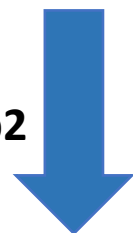
Step1



国際交流協会

- 日本語学習サポーターの申請
- 面談時等の通訳依頼
- 多言語コールセンターの申請

Step2



佐賀県教育委員会

教育振興課

- DLA測定支援員派遣の申請
- 多言語翻訳機器の貸出申請
- その他日本語指導全般に係る相談

教職員課

- 帰国外国人子女等対応非常勤講師の申請

学校教育課

- 教育課程に係る相談
- 進学に係る相談

Step3



学校

- ◎帰国・外国人児童生徒の受入
- 「特別の教育課程」による日本語指導



(1) 市町教育委員会・学校へ向けた取組

- ① 日本語支援・指導体制に関する調査の実施（県独自調査、不定期）
- ② 帰国・外国人児童生徒等教育担当指導主事研修会の実施

令和4年度実績

- 内容：
- ① 日本語指導に係る佐賀県の現状について（県教委指導主事）
 - ② 講演（福岡市立松島小学校校長 西村綾子先生）
 - ・外国人児童生徒等教育に対する国の動き
 - ・受入に向けて（教育委員会・学校の役割）
 - ・具体的な対応事例の紹介 等
 - ③ 県国際交流協会の取組
 - ④ 日本語指導担当教員配置市町の取組

- ③ 『外国につながる児童生徒受入の手引き』の配布、活用
- ④ 「特別の教育課程」による日本語指導の推進



(2) 帰国子女等対応非常勤講師に向けた取組

① 帰国子女等対応非常勤講師研修会（年2回）の実施

令和5年度 第1回研修会（6.9）
第2回研修会（11.29予定）



② 日本語初期指導マニュアル（佐賀県推奨版）

- ・ 佐賀県日本語学習支援カスタネットfor キッズが原案作成
- ・ 佐賀県教育委員会で協議を重ね、初期指導に必要な情報を1冊に集約
- ・ 令和5年度から、佐賀県教育委員会は、非常勤講師が初期指導を行う際、同マニュアルに沿って指導を行うことを推奨

③ 日本語指導プラットフォームでの共有コンテンツ

- ・ 佐賀県教育センターHPに情報アップ（整備中）

4. 今後の課題

- ◆ **日本語サポートセンター**の設置
子ども日本語コーディネーターの配置
十分な初期指導時間の確保、適切な指導時間の基準設定、地域や学校間の格差是正
- ◆ **連携体制の充実**…様々な機関との連携、幼小中高の連携、他地域との連携（転出入に備えて）
- ◆ **日本語指導者の指導力の向上**…指導内容、新しい情報入手等ブラッシュアップ
在籍学級との連携、指導者同士の連携
- ◆ **佐賀指導マニュアルの充実**…指導内容の検討、追加修正
- ◆ **リソースルーム**の設置…必要な教材・教具・情報をいつでも得ることができる場所を設定
- ◆ **学校・行政への周知活動**…初めての受入校でも対応できるように
学校での支援体制作り等の研修会等実施
- ◆ **多文化共生教育の推進**…すべての教員が多文化共生教育を実施できるように
- ◆ **指導実績の蓄積、検証**（子どもの進路追跡を含め）

参考資料

- ・小島祥美（2021）『Q&Aでわかる外国につながる子どもの就学支援』、明石書店
- ・斎藤ひろみ（2009）『文化間移動をする子どもたちの学び』、ひつじ書房
- ・佐賀県国際交流部国際課（2022）「広域で考える日本語教室 空白地域解消の取りくみ」資料より（佐賀県地域交流部 国際課 R4.11 提供資料）
- ・佐賀県教育委員会（2023）『外国につながる児童生徒受入の手引き』佐賀県教育委員会事務局（佐賀県教育委員会 資料提供）
- ・中島和子（2016）『バイリンガル教育の方法』、アルク
- ・早瀬郁子他（2016）「散在地域におけるJSL児童生徒の日本語指導－支援ネットワーク作りの成果と今後の課題－」『子どもの日本語教育研究会 第1回大会』ポスター発表
- ・早瀬郁子他（2018）「散在地域として特色のある支援体制構築を目指して－佐賀県全体として連携の取れたJSL児童生徒への日本語指導－」『子ども野日本語教育研究会 第3回大会』ポスター発表
- ・吉田美穂（2023）外国につながる子どもの教育支援ガイドブック－多文化共生の学校づくりに向けて－」やまと印刷株式会社
- ・佐賀県日本語学習支援“カスタネット”HP <https://castanetnihongo.jimdofree.com/>
- ・文化庁『「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業地域日本語教育スタートアッププログラム』令和4年度
https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/seikatsusha_startup_program/93895301.html
- ・文部科学省総合教育政策局（2019）『外国人児童生徒受け入れの手引き改訂版』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm
- ・文科省（2022）外国人児童生徒等教育の現状と課題 資料5
https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/todofuken_kenshu/r4_annai/pdf/93812501_05.pdf
- ・文科省（2022）日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査結果について
https://www.mext.go.jp/content/20221017-mxt_kyokoku-000025305_02.pdf